

製品名: Dok-2 (リン酸化 Tyr299) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04558**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	DOK2
別名	DOK2; Docking protein 2; Downstream of tyrosine kinase 2; p56(dok-2)
遺伝子 ID	9046.0
SwissProt ID	O60496
免疫原	抗血清は、ヒト p56 Dok-2 の Tyr299 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 266-315

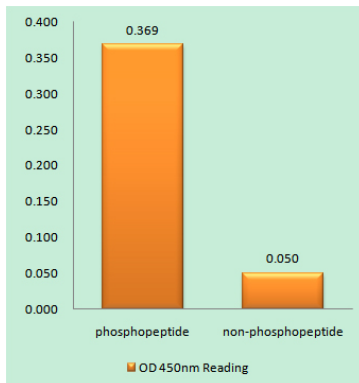
背景

ドッキングタンパク質 2 (DOK2) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、慢性期の慢性骨髄性白血病

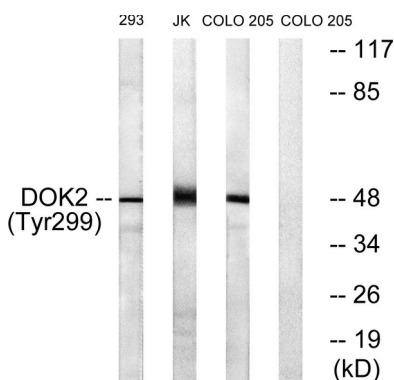
(CML) 患者から単離された造血前駆細胞において恒常的にチロシンリン酸化されている。これは、CMLに関連するキメラタンパク質である p210 (bcr/abl) の重要な基質である可能性がある。このコードされたタンパク質は、CML細胞の p120 (RasGAP) に結合します。[RefSeq 提供、2008年7月],ドメイン: PTB ドメインは受容体相互作用を媒介します。機能: DOK タンパク質は、酵素的に不活性アダプターまたは足場タンパク質です。これらは、多分子シグナル伝達複合体の組み立てのためのドッキングプラットフォームを提供します。DOK2 は、IL-2 および IL-3 だけでなく、IL-4 によって誘導される細胞増殖を調整する可能性があります。Bcr-Abl シグナル伝達の調整に関与している可能性があります。EGF 刺激による MAP キナーゼ活性化を減弱させる。PTM: 免疫受容体刺激により、C 末端チロシン残基がリン酸化される。Tyr-345 のリン酸化は NCK の SH2 ドメインへの結合に必要である。Tyr-271 と Tyr-299 の両方のリン酸化は RASGAP との相互作用に必要である。類似性: DOK ファミリーに属する。タイプ A サブファミリー。類似性: IRS 型 PTB ドメインを1つ含む。類似性: PH ドメインを1つ含む。サブユニット: リン酸化 RASGAP および EGFR と相互作用する。RET および NCK と相互作用する。組織特異性: 末梢白血球、リンパ節、脾臓で高発現する。胸腺、骨髄、胎児肝臓では発現が低い。

研究分野

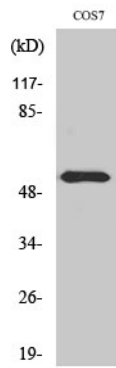
画像データ



p56 Dok-2 (リン酸化 Tyr299) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



インスリン 0.01U/ml 15 分処理した COS7 細胞、インスリン 0.01U/ml 15 分処理した Jurkat 細胞、および血清 20% 15 分処理した 293 細胞のライセートを p56 Dok-2 (リン酸化 Tyr299) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Dok-2 (Y299) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析